

退任の挨拶

占部逸正

今期は、東日本大震災に伴う福島原子力発電所の事故と災害対応という大きな課題に直面しました。当部会においては、この間、放射性物質の挙動や放射線被ばくの解析のみならず、直接、災害対策本部の政策決定に寄与し、あるいは被災者との対話に係るなど、職域を越えて災害被害の軽減に寄与するさまざまな活動を行うことができました。これは、原子エネルギーを国民の福祉のために活用しようと努めてきたものの一員としての責務でもありました。部会員の皆様、大変ご苦勞様でした。

災害はなお緊急事態下の復旧期にあります。長期にわたる放射線災害の状況下で、今後は被災者の生活の質の向上を目指した対応が求められると予想されます。その際、放射線被ばくに対する不安とどう向き合うのかが大きな課題となることでしょう。被災者の不安や憤りを思えば、「放射線に対する安全の評価結果を理解してもらう」のではなく、「価値判断のできる材料を発掘し、対話を継続すること」が放射線防護や環境科学の専門家としての私たちのこれからの役割になろうかと思えます。

原子エネルギーの利用に係る安全性の国民的理解は、科学的工学的知見のみならず、政治的経済的な判断の繰り返しによって培われ、後者がどれだけ前者を反映しているかにより大きく影響を受けます。また、その背景には利害関係者間の信頼関係の形成の問題が横たわります。そういった意味では、今回の災害対応では安全を実現する強い意志を示すこととそのための技術的な基盤を不断に整備することがこれまで以上に強く原子力界に求められることにもなりました。当部会はこの両者の課題において、今後一層その役割の重要性が増すものと思われます。今後の発展を期待しています。